

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL 0736(64)2300

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花 き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ タバココナジラミ オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並 並 並 やや多 やや少 やや少 並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病 シロイチモジヨトウ オオタバコガ	並 並 並 やや多 並		カンキツ	ミカンハダニ
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並	果樹全般	カメムシ類	(紀北地域) やや多 (有田以南) 並

気象予報

1か月予報（予報期間 9月25日～10月24日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

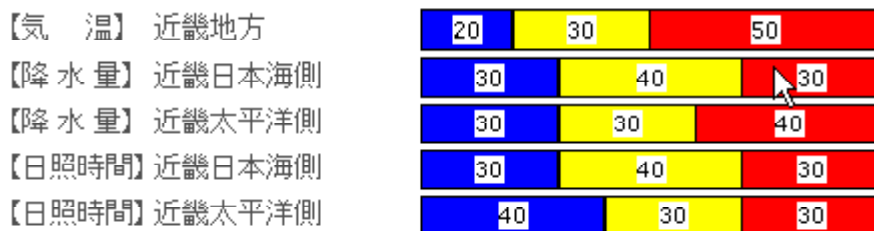
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は、数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率が50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率が50%です。2週目は、高い確率が60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

10月	月平均気温 (平年値) (℃)		月降水量 (平年値) (mm)	
	和歌山	18.4	和歌山	112
潮岬	19.6	潮岬	219	

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月2半旬現在、0%（過去4年間の平均2.0%）であった。

② 媒介虫タバココナジラミの発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。

② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。

③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。

④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上を古ビニルなどで覆って2週間以上密封し、タバココナジラミを死滅させる。

⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。

③ 種子伝染するので、多発ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 乾燥すると莢形成期以降に発生しやすい。
- ② 発生初期より防除を行う。

4. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率56%（平年26%）、寄生株率9.4%（平年5.0%）と平年に比べやや高かった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市43頭（平年39頭）、御坊市90頭（平年72頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

5. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率6%（平年32%）、寄生株率0.6%（平年5.1%）と平年に比べやや少なかった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市11頭（平年5.7頭）、御坊市0頭（平年7.6頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年0.2頭）、和歌山市0頭（平年0.7頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 抵抗性の発達をできるだけ抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。
- ② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周囲のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率20%（平年19%）、寄生葉率1.5%（平年3.1%）と平年並であったが、ワタアブラムシは発生ほ場率70%（平年22%）、寄生葉率24%（平年2.8%）と平年に比べやや高かった。
- ② 9月の黄色水盤への飛来数は4半旬現在、紀の川市で26頭（平年110頭）と平年に比べやや少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果が高い。
- ② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率20%（平成23%）、寄生葉率8%（平成5.3%）と平成並であった。ナミハダニは発生が認められなかった（平成発生ほ場率18%、寄生葉率4.8%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キクに近いほ場では特に発生に注意する。

3. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率40%（平成36%）、寄生葉率5%（平成2.5%）と平成並であった。
- ② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率44%（平成29%）、寄生株率5%（平成4.7%）と平成並であった。
- ③ フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市126頭（平成401頭）、和歌山市475頭（平成99頭）、御坊市272頭（平成646頭）、印南町190頭（過去7年の平均166頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

4. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、タバココナジラミの発生ほ場率80%（平成35%）、寄生葉率23%（平成9.4%）と平成に比べやや高かった。

5. オンシツコナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、オンシツコナジラミの発生ほ場率20%（平成42%）、寄生葉率1%（平成7.1%）と平成に比べやや少なかった。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率40%（平成59%）、寄生葉率17%（平成29%）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ（「防除指針」参照）。

7. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生が認められなかった（平年発生ほ場率9%、寄生葉率1.5%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場における9月中旬の発生は、無防除園において平年並で、慣行防除園では認められなかった。

② 9月中旬の巡回調査では、寄生葉率は9.0%（平年7.9%）と平年並、発生園率は48%（平年34%）と平年に比べやや多かった。

③ 10月の気象予報によると、気温の高い確率が50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に複数回使用しない。

② 秋期のダニ防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：やや多 紀南地域（有田以南）：並

(2) 予報の根拠

① カキの9月中旬の巡回調査における「富有」の被害果率は14.7%（平年6.5%）と平年より多かった。「刀根早生・平核無」の被害果率は0.6%（平年0.5%）と平年並であった。

② 8～9月中旬までの予察灯における果樹カメムシ類（チャバネカメムシ、ツヤカメムシ、クサキカメムシ）の誘殺数は、有田川町奥（果樹試験場）では平年並、紀の川市粉河（かき・もも研究所）では平年より多かった。

③ ヒノキ花粉飛散数比（本年/前年）は0.16で、球果量は昨年よりも少なく、球果量が少ない年は秋期に果樹園への飛来が多い。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。

② 飛来のみられる園では、登録農薬を直ちに散布するが、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

③ 台風通過後一時的に増加する場合がありますので、飛来に注意する。

④ カメムシ類の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページ内各種情報の果樹カメムシ情報（URL：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatu/kamemusi/kamemusi.htm>）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境保全室ホームページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。